

世紀またぐOB戦

秋高、宇治山田高に快勝

第1回 中学
野球大会での
準々決勝再現

母校野球部の歴史に燦然とその名を刻む秋田中学当時の第一回全国中等学校優勝野球大会準優勝。母校は決勝で京都二中（現鳥羽高）に惜しくも1対2で敗れたが、高校球児の晴れ舞台夏の全国高校野球大会は一九一五年（大正4年）に開催されたその第一回大会を嚆矢とする。あれから一世紀近い時を隔てて、同大会の準々決勝の熱戦が九月十日、両校OBたちによって母校グラウンドを舞台に再現された。

対戦したのは三重県立宇治山田高（旧制山田中）と秋田高（旧制秋田中）。両者は九十六年前に大阪・豊中球場で開かれた第一回大会の準々決勝で顔を合わせ、秋田中が9-1で山田中を下している。

準々決勝の再現話が持ち上がったいきさつはこうだ。母校野球部OB会の猿田五知夫会長（昭51年卒）によると、夏の全国高校野球選手権大会が百周年を迎える二〇一五年に第一回大会の出場校十校によるOB交流戦を開こうという構想が広島国泰寺高（旧制広島中）を中心に浮上し、これを伝え聞いた宇治山田高から準々決勝の対戦相手秋田高に実現への協力要請とともに、その「前哨戦」として交流試合の呼



びかけがあったという。宇治山田高の熱意を快く引き受けた秋田高矢留倶楽部は三十〜四十歳代のOBを中心に

にチームを編成、九月十日の試合当日は母校グラウンドで



石井浩郎参院議員も4番1塁で先発出場、攻守に活躍した

軽く練習に汗を流した後、空路秋田入りした宇治山田高OBチームの一行二十六人を大きな拍手で出迎えた。宇治山田高野球部OB会の田畑吉春会長（昭58年卒）は「九十六年前は大敗しているので今回は是非勝ちたいが、選手は四十歳代を中心に十六人しかないのですがをしないように頑張ります」と笑顔の中にも静かな闘志をのぞかせると、対する母校OBチームを率いる赤沼新二監督（昭40年卒）は「長い時間が過ぎてそれぞれ学校の歴史も野球部の歴史も変わり、交流試合でそれがどう出るか楽しみ。秋高魂で一丸となつて勝ちにいく」ときっぱり。

試合に先立って両チームそろって記念写真に収まり、午

後二時、第一回大会に出場した秋田中信太貞一塁手の子息聡一さん（昭27年卒）の始球式で試合が始まった。

試合は秋田高山岡樹宗（平18年卒）、宇治山田高上部真嗣（平4年卒）両投手の投げ合いで始まり、一回こそ両チームとも凡退したものの、二回には早くも秋高打線が爆発打者一巡の猛攻で4点を先制した。これに対して宇治山田高は三回に1点を返したものの、その裏秋高打線に再び4点を許す苦しい展開となった。宇治山田は最終回まで必死に追撃したが、秋高打線の猛打は止まらず、結局四人の投手からあわせて二十本のヒットを奪った秋田高OBチームが14対4で快勝、宇治山田高の雪辱はならなかった。

当日は途中から雨が降り出すあいにくの天候だったが、東京矢留会の熊谷光太郎さん（昭33年卒）をはじめたくさんの野球部OBも駆け付けてベンチから盛んに声援を送ったほか、ネット裏には五十人ほどの高校野球ファンが詰めかけ、土手に腰かけたり立ったりと熱心に戦況を見守っていた。

試合後、両チームは夜の懇親会でさらに交流を深め再会を誓いあった。

菊地司法書士事務所

司法書士

菊地 喜久雄

(昭和52年卒)

〒010-0951

秋田市山王六丁目1-1(山王ビル)

TEL 018-823-9381

FAX 018-823-3209

superman-kikuchi@nifty.com

http://www.kikuchi-shiho.jp

設計・監理

株式会社



渡辺佐文建築設計事務所

代表取締役

池田 匠

(昭和52年卒)

〒010-0954

秋田市山王沼田町6番8号

TEL 018-863-8431

FAX 018-863-8432

おおすみ歯科医院

院長

佐々木 嘉一

(昭和52年卒)

秋田市大住三丁目3番53号

秋田銀行大住支店隣

TEL 018-836-5222

http://www.oosumi-shika.com

生鮮食品から家電品まで
毎日良い品をより安く!

ドジャース

代表取締役

挽野 泰次

(昭和42年卒)